

2026年6月20日(土)**委員会セミナー**

◆ オンデマンド配信あり

13:50 ~ 14:40 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー1 (修練医・認定医・専門医制度委員会) 補綴歯科専門医の取得について

[CS1] 補綴歯科専門医の取得について

*鮎川 保則¹ (1. 九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)**委員会セミナー**

◆ オンデマンド配信あり

14:50 ~ 15:40 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー2 (編集委員会) 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

座長：前川 賢治 (大歯大)、田坂 彰規 (東歯大)

[CS2-座長] [座長抄録] 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

*前川 賢治¹、*田坂 彰規² (1. 大阪歯科大学歯学部欠損歯列補綴咬合学講座、2. 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)

[CS2-1] 症例報告における緒言の構成と思考プロセス

*村上 和裕¹ (1. 新潟大学大学院医歯学総合研究科 包括歯科補綴学分野)

[CS2-2] 症例提示の要点と治療結果を評価する客観的・主観的評価指標

*三野 卓哉¹ (1. 大阪歯科大学)

[CS2-3] 症例報告の考察・結論：読み手に伝わる書き方と投稿のポイント

*原田 佳枝¹ (1. 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野)

委員会セミナー

◆ オンデマンド配信あり

■ 2026年6月20日(土) 13:50～14:40 | 会場 第2会場（ウインクあいち 6F 展示場604+605）

委員会セミナー1（修練医・認定医・専門医制度委員会） 補綴歯科専門医の取得について

[CS1] 補綴歯科専門医の取得について

*鮎川 保則¹ (1. 九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)

委員会セミナー

2026年6月20日(土) 13:50～14:40 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー1 (修練医・認定医・専門医制度委員会) 補綴歯科専門医の取得について

[CS1] 補綴歯科専門医の取得について

*鮎川 保則¹ (1. 九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)

キーワード：補綴歯科専門医、生涯研修、日本歯科専門医機構

補綴歯科専門医制度が日本歯科専門医機構の認定を得て広告可能になった。学会認定の専門医制度と比較するとステップが若干増えたため、学会認定専門医からの切り替え、新規取得や更新の仕組みはやや複雑になっている。特に取得すべき単位には、期間内に必要単位数を満たせばよいもの（学会参加単位や学会が実施する専門医研修会等）と、毎年必ず単位を取得しなければならないもの（機構認定・機構主催の共通研修）があるなど、注意すべき点も多い。本セミナーでは、機構認定と学会認定の専門医の相違点や取得、更新の仕組み等を解説する。

委員会セミナー

◆ オンデマンド配信あり

■ 2026年6月20日(土) 14:50 ~ 15:40 | 会場 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー2 (編集委員会) 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

座長：前川 賢治 (大歯大)、田坂 彰規 (東歯大)

症例報告論文は、臨床で得た知見を学術として共有し、治療判断の妥当性を検証可能な形で残すために重要である。本セミナーでは、緒言における新規性と論点の提示法、症例提示で経過を再現性高く伝えるための情報選択と構成を解説する。さらに、多面的評価と患者報告アウトカム、デジタル評価を踏まえた考察の深め方を扱う。加えて、査読で問われる観点、倫理、図表作成の要点を臨床家の視点で整理し、投稿に直結する実践知へつなげる。

[CS2-座長] [座長抄録] 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

*前川 賢治¹、*田坂 彰規² (1. 大阪歯科大学歯学部欠損歯列補綴咬合学講座、2. 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)

[CS2-1] 症例報告における緒言の構成と思考プロセス

*村上 和裕¹ (1. 新潟大学大学院医歯学総合研究科 包括歯科補綴学分野)

[CS2-2] 症例提示の要点と治療結果を評価する客観的・主観的評価指標

*三野 卓哉¹ (1. 大阪歯科大学)

[CS2-3] 症例報告の考察・結論：読み手に伝わる書き方と投稿のポイント

*原田 佳枝¹ (1. 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野)

委員会セミナー

2026年6月20日(土) 14:50 ~ 15:40 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー2 (編集委員会) 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

座長：前川 賢治 (大歯大)、田坂 彰規 (東歯大)

[CS2-座長] [座長抄録] 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

*前川 賢治¹、*田坂 彰規² (1. 大阪歯科大学歯学部欠損歯列補綴咬合学講座、2. 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)

キーワード：論文構成、評価指標、考察

症例報告論文は、臨床から得られた知見を学術的に共有する基本的な研究形態であり、歯科補綴学においては治療プロセスと臨床判断の妥当性を可視化する手段として意義をもつ。本セミナーでは、質の高い症例報告を作るための実践ポイントを、講演順に整理して提示する。村上先生には、背景となる疾患概念や既報を整理し臨床的課題を明示したうえで、「どこが新しいのか」「どんな症例に役立つのか」を言語化し、焦点を絞った緒言とタイトルへ落とし込む思考プロセスを解説いただく。続いて三野先生には、症例提示セクションで必要な情報を過不足なく整理し、主訴、現症、現病歴、既往歴など初診時情報、診断、複数の治療選択肢、治療計画、治療内容、治療結果、治療経過を事実に基づいて示す方法を解説いただく。また、強調点に直結する検査所見や画像資料の選択、信頼性と妥当性が検証された客観的評価法と主観的質問票による結果提示、デジタルツールを活用した評価手法を概説いただく。最後に原田先生には、考察と結論で判断に迷いやすい点として、事実の再構成を基盤に、介入の理由、観察時点、比較の視点が追えるか、評価の方法・単位・時点がそろっているか、評価的表現が提示した事実と整合しているか、結論が当該症例から導ける範囲を超えて一般化していないか、という観点からの点検法を提示いただく。併せて、引用文献を症例の位置づけに資するものへ絞る要点、倫理・図表・編集側の視点からみた投稿時の注意点、新設の学会誌論文賞にも触れ、臨床成果を文献として残す意義を共有する。

委員会セミナー

2026年6月20日(土) 14:50 ~ 15:40 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー2 (編集委員会) 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

座長：前川 賢治 (大歯大)、田坂 彰規 (東歯大)

[CS2-1] 症例報告における緒言の構成と思考プロセス

*村上 和裕¹ (1. 新潟大学大学院医歯学総合研究科 包括歯科補綴学分野)

キーワード：症例報告、緒言、新規性

症例報告は、臨床から得られた知見を学術的に共有する最も基本的な研究形態であり、歯科補綴学においては治療プロセスや臨床判断の妥当性を可視化する手段として意義がある。また、新たな治療法の提言や新規歯科材料の臨床応用を目的とした症例報告では、治療に関する新たな知見を提示する意義をもつ。その一例として、「義歯の安定に磁石を利用する」という先人の発想から試みられた治療法が症例報告として発表され、その後の研究による理論や材料の改良を経て、現代の歯科臨床で普及している磁性アタッチメントへと発展したことが挙げられる。このように、症例報告はエビデンスレベルが低いものの、臨床だけでなく、臨床と研究をつなぐ点で学術的価値は高い。

症例報告の緒言では、背景となる疾患概念や既報の整理、臨床的課題の明示を行い、「どこが新しいのか」、「どんな症例に役立つのか」といった報告の意義や目的を提示する必要がある。つまり、標準治療や既報の術式と同じような報告では、学術的価値を示すことが難しい。本講演では、質の高い症例報告を作成するための基盤として、まず症例報告の意義と学術的価値を整理し、次に新規性や臨床的示唆を抽出する視点について解説する。さらに、緒言の基本構成を踏まえて焦点を絞ったストーリー構築とタイトルへのつなげ方について解説する。症例報告を単なる経過報告に終わらせず、「なぜこの症例を報告するのか」を言語化するための思考プロセスを共有することで、質の高い症例報告を作成するハードルが少しでも下がることを期待する。

委員会セミナー

2026年6月20日(土) 14:50 ~ 15:40 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー2 (編集委員会) 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

座長：前川 賢治 (大歯大)、田坂 彰規 (東歯大)

[CS2-2] 症例提示の要点と治療結果を評価する客観的・主観的評価指標

*三野 卓哉¹ (1. 大阪歯科大学)

キーワード：症例報告、客観的評価、主観的評価

症例報告論文における症例提示セクションは、緒言や考察とは異なり、初診時の患者情報から診断、治療内容、治療結果、および治療経過までを事実に基づいて記載するパートである。一見すると記述は単純に見えるが、適切な情報選択と治療結果の評価の提示が求められる点で配慮を要する。症例報告は多くのジャーナルにおいて原著論文より文字数制限が厳しいことに加え、不要な情報の過剰な記載は査読評価にも影響するため、必要な情報を過不足なく整理して提示することが重要である。多くの症例において、主訴、現症、現病歴、既往歴などの初診時情報、診断内容、複数の治療選択肢の提示、ならびに治療計画の記載は必須項目となる。さらに、症例の新規性や臨床的意義を明確に示すために、著者が強調したいポイントに直結する検査所見、画像資料、口腔内写真、検査値などを優先的に選択して提示する必要がある。加えて、治療結果の妥当性を担保するためには、信頼性と妥当性が検証された客観的評価法および主観的質問票を用いた評価結果を示すことが重要である。これらの指標を用いた評価が示されない場合、治療成果を国際的に共有可能な統一基準で読者に伝えることが困難となり、論文受理の障壁となる可能性がある。本セミナーでは、補綴領域の症例報告における症例提示セクションの記載項目について体系的に整理し、治療結果を評価するための客観的評価法および主観的評価法について概説する。さらに、近年普及しているデジタルツールを活用した評価手法についても紹介する予定である。

委員会セミナー

2026年6月20日(土) 14:50 ~ 15:40 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

委員会セミナー2 (編集委員会) 質の高い症例報告を作る -構成・評価・考察の実践ガイド

座長：前川 賢治 (大歯大)、田坂 彰規 (東歯大)

[CS2-3] 症例報告の考察・結論：読み手に伝わる書き方と投稿のポイント

*原田 佳枝¹ (1. 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野)

キーワード：1. 症例報告、2. 考察、3. 倫理的配慮

症例報告論文は若手の頃から取り組みやすい論文形式だが、その中でも考察や結論は「どこまで言っているのか」の加減が難しく、最も迷いやすい部分ではないだろうか。演者自身、若手の頃よくわからないまま書き始め、悩んだことがある。本講演では、考察を組み立てる際の基本的な視点を整理する。

まず重視すべきは、治療経過や判断過程、結果といった事実を過不足なく記載することである。考察は単なる結果の繰り返しとならないように、解釈を加える前に、症例で実際に起きたことを整理し直す作業が欠かせない。その際、①読み手が経過と臨床判断を追えるか（介入の理由、観察時点、比較の視点が明確か）、②客観的な評価指標や図表で結果が確認できるか（評価の方法・単位・時点がそろっているか）、③評価的表現が事実と合っているか（断定が先行していないか）、④結論がこの1症例から導ける範囲を超えて一般化していないか、という4つの視点で点検すると、論理の飛躍を防ぎやすい。引用文献は、症例の文脈を補足し位置づけを明確にするために、関連性の高いものに絞る。こうした点を意識することで、エビデンスとナラティブがうまく統合され、初稿から論旨が明確で読み手に伝わる原稿につながる。結論を臨床的示唆としてまとめるコツについても触れる予定である。また、投稿時に見落としがちな注意点を、倫理面・図表作成・編集側の視点から紹介する。最後に、新設が予定されている日本補綴歯科学会誌論文賞にも触れ、臨床成果を文献として残す意義を共有したい。